

田中 いと

たつみ誌を主人なき後もいつもお送り頂き有難う存じます。坂本寿様のわが人生、もしあの時の『もし』という御言葉に感激し筆をとる気になりました。私共も高知県人ですので、久しぶりになつかしい土佐ベンに、ふる里を思い出しました。

今思い出しても遠い遠い昔の様な気がしますが、主人(実)は大正十三年、満洲開原の出張所に行き、一年余りでお店を閉鎖し、昭和二年、ハルピンで又一生わすれられない思い出となる日が来ました。帰国して二十年の月日が流れ、戦後の世の中も次第に落着いた時、シミジミと過去をふり返り、人の運命、人生を考えた時もありました。坂本様のもし『あの時』に感激しながら、お礼も申さず、ぐずぐずして居る内に紅葉の秋となりました。毎朝中国残留孤児の肉親さがしが、テレビに放映されるのを見て、日本では想像も出来ないはてなき広野で、零下三〇度の寒さ、又飢の中、想像し涙が出ます。皆様どうか肉親の方にめぐり会われますようお願いいたします。

長年のつもるお礼おくれながら申し上げます。

樽谷 誠太

清涼の候となりました。たつみ45号をご恵送下さいました。有難う存じます。

皆様のご近況を亡父(勳三郎)の霊前にお供え致しました。いつも楽しみに待っておりました御誌を拝見してさぞ喜んでおることをごさいます。来る十一月に三回忌を迎えることになり感慨ひとしおでございます。皆様のお苦勞を心から深謝いたします。

西川 明子

初秋のさわやかな頃となりました。いりました。この度は『たつみ』45号をお送り下さいまして、誠に有難うございました。主人在世中よりいつも一方ならぬお世話様になりました。厚く御礼申し上げます。植田様、斉藤様のお寄せ下さいました、追悼文、そしてバレーボールの写真など、感慨一入、拝見いたして居ります。また皆様からの折々のお便り、御

長寿の方々のアンケート等々、楽しく拝見させて頂く事でございます。今後共何かとお世話様になりますことと存じます。よろしくお願ひ申し上げます。一筆とり敢えず御礼まで申し上げます。

福永 千代

漸く秋も深まってまいりました。この度はたつみ45号をわざわざお送り頂きありがとうございます。皆様方のご近況を亡夫(俊一)の仏前にお供え致しました。さぞやよろこんでいます事と存じます。私も楽しく拝見させていたゞきました。皆様のご健康を心からお祈りいたします。

福本 三郎

晩秋の頃となりました。何時もお世話になります。柳田様より、米寿記念俳句近作展の印刷を頂きました。私、目下健康を害して参れませんが、JTBに勤めて居ります二男に拝見に行くよう申しました。陳舜臣さんの序文もあり御立派だったと連絡がありました。

米寿盃浮き寝の醒めぬ渡り鳥、はご感慨かとも存じました。御高令益々のご健勝を祈念申し上げます。

松井 竹代

おなつかしい御誌45号拝受有難うございました。九〇才以上の皆様の御文面拝し、私もぜひ皆様の様にと嬉しく長寿を願って居ります。只今のところ、医者には用なく、たゞ夕食後、太田胃散と目薬をさし、九時に床につき朝四時に嬉しさいっぱいで目をさまします。五時過ぎ門前の花と葉をはき清め、朝食は六時過ぎに致します。朝食後、たつみ誌、朝日、読売新聞を読みます。午前中、晴天のときは、庭の花、植木の手入れを致します。自動車があぶないので外出はいたしません。たまに墓参に嫁と参ります。

謡曲だけはよくおうたいしますので、近所の方には元気でいると、おわかりのようです。誠に乱筆、思いつき御許し遊せ。(もうすぐ87才になります。)

辰巳 だより 会り

会務報告

昭和六十一年十月十六日

鳴門観潮・鳴門大橋見学

及霊山寺参拝

幹事 小倉 五郎

みなさんノお早よう御座居ます。こんなに早くお集り頂いたのは初めてと存じますが、何分にも今回の計画の目玉と申しましょうか、鳴門観潮には文字通り、潮時と云うものがあります関係上、敢えて、こんなに早くお集り頂きました次第でありまして、不悪御諒承頂きたいと存じます。

処で、観潮は出来れば橋上より、又展望台より壮大な様を満喫して頂きたいと存じます。尚、その後は御案内申し上げました通り、若山料亭にて鳴門の幸を充分満喫して頂いて、その後、四国八十八ヶ所の霊場一番の札所霊山寺参拝の上一路帰神に就く予定となっております。

尚本日は、鈴木会長が御出席の予定となっていたのですが、

緊急な社用の為残念乍ら欠席となりました。その反面、元日商岩井の神戸支店長であられました、中嶋儀一郎さんに御出席頂いております。この中には中嶋さんとは旧知の方が可成居られると思いますが、現在は日商岩井社友会の大坂支部長として、会員のため数多の分科会を指揮して日夜大活躍をしておられますので、後程会食時に一言御感想など頂きたいと存じております。尚、会務報告もその折にと存じたのでありますが、帰りのフェリーの時間が決まって居ります関係上、時間的余裕があまりありませんので、引き続き会務を御報告申し上げます。

と云って今回は取り立て、申し上げる事は何も無いのでありますが、来年の行事について予告を申し上げます。

先ず、新年の例会でありますが大体一月の二十日過ぎと考えていますが、場所等は未定です。寒い折柄、暖い場所で和食又は支那料理で実施したいと考えておりますので、お含み願います。

次に来年の全国大会であります。が去る五月の京都の大会で申上げました通り、構想としては祥竜寺

において、お家さんの五十回忌の法事を務めると云う事は既に決定事項でありましたが、日取りは四月十四日の火曜日と決定されましたので、御報告申し上げます。尚、時間その他詳細については未定でありますので決定次第追って御報告申し上げます。

次に「たつみ」誌四十五号についてであります。既に御落掌頂いた事と存じますが編集子がへあとがきで一寸嬉しい悲鳴を上げる程原稿を寄せて頂き、一部次号に廻さざるを得ませんでした次第、厚く御礼を申し上げますと共に今後とも何分宜敷投稿の程御願ひ申し上げます。尚、本号郵送に際し「暑中見舞」の広告料の振込用紙を同封致しておきましたので、お手数乍らお忘れなく折返し程お願ひ申し上げます。

それでは最後に去る五月の全国大会以後に御連絡のありました亡くなられました会員の方々を御報告申し上げます。

- 六・五・三 於京都市寺泉漏寺全国大会以後
五・二・四 広島市 田中次郎 公
五・二・四 ベイカルカッタ大連支店
五・五・二 姫路市 河野九郎 公

- 帝國汽船(株) 隆一 三
北九州市 泉
北九州市 新海 元 六
神戸市 猪井爲一 八
茨木市 深川 清 三
帝国家業(株)下関支店
岩瀬聖一 八

- 生糸絹織物部
西川政一 八
元日商岩井社長
神戸市 畑 薫 八
本店貨物課
神戸市 中村元義 六
東京支店輸入木材課
豊橋市 久保勝資 八
桜麦酒(株)東京大阪支店
市川恒雄 三
神鋼ファウドラ(株)
東京都 鳥居 健 三
東京都 香港出張所
大阪市 橋本賀一郎 八
外国発信部下関支店
以上十四名の方々であります。その内、五十八年暮迄の五名の方々につきましてはこの度名簿更新の関係もあつて、九十才以上の方々に對して近況その他についてアンケートを求めました処、御家



族より既に御他界の由御通知があつたり、又未着返送分については市区町村役場に照会の結果判明した方々でありますので、念の為申し上げます。

それではこの方々の御冥福を心から祈念して御一緒に黙禱を捧げたいと存じます。

黙禱 始め 終り  
以上をもちまして会務報告を終らせて頂きます。

御清聴有り難う御座居ました。

## 中部支部だより

竹下 富士松

(昭和六十一年九月十八日 泊二旦)

定光寺紀行

大型台風十六号

大雨はらんで北上中と

昨夜テレビの放送に

中部支部の例会は

どうなる事かと気がもめた

明くなれば、どうだこの天気

雲ひとつなき碧空に

サテも見事なよい日和

あ、よかつたと双手をあげりゃ

初秋の風もさわやかに

サア出掛けるぞイン〜と



中部支部例会 定光寺 61. 9. 18

遙々東京 神戸より  
賓客迎え都塵をはなれ

こ、中央線定光寺

小高い山の中腹に

自然の森にかこまれた

いと瀟洒なる建物は

県営市民の憩いの場

その庭先に人知れず

咲く雑草のさ、やかな

花に情けの露光る

芒の穂波 微風にゆれて  
われらを招き出迎える

大浴場の湯舟にひたり

山麓はるかに眺むれば

かすみて見ゆるは多治見市か

陶器焼くらし うす煙り

墨絵に似たる森林美

古代南面の風情あり

姿みえねどさえずる声は

誰を呼ぶやら群れ雀

疲れやすめに二度三度

この山奥の湯けむりに

うき世忘れてうと晴し

揃いの浴衣にうちくつろいで

堅い話はソコ〜に

すませて今宵はのんびりと

一杯やろうよサア乾杯だ

年に一度のこの集い

田舎料理も心がこもりゃ

万更すてたものじゃない

さしつさ、れつ地酒の味も

ほろよい機嫌に旧情が

よみがえりたる雰囲気

生気あふれて若返る

想い出話に花が咲き

お店恋しや友なつかしや

八十爺の瞳がうるむ

思えば遠くカナタツの

青春時代の夢のあと

あ、遙けくも来つる哉

よく食いよく飲みよくしゃべり

あとはグッスリ夢枕

あくればどうやらうす曇り

時雨は天にお任せ申し

足を伸ばして予定外

虎溪山なる永保寺

車つらねて寺詣り

日頃の信心 心がけ

佛様にも通じてか

あやしき雲のすきまより

洩る、日射しの有り難さ

このかくれたる名園に

滝あり池あり奇橋あり

国宝指定もこ、かしこ

景観美事に調和して

口かしましき同輩も

たゞウツトリと佇みて

吐息もらして言葉なし

雌雄一ツの大銀杏

一千年の昔を語る

佛往禪師の夢のあと

われに返ればうき世の風が

どうやら誘う腹の虫

さらばと再び街の中

老饅亭の奥座敷

名物自慢のウナギの味に

さすが器の彩そえて

思いがけなき舌鼓

いよ〜恐れいりました

どうやら腹も八分目

それでは皆さん来年も

元気な姿で又逢いましょう

名残り惜しんで手をふりながら

多治見の街角西東

出席者田代義雄よし子ご夫妻、安

東浄、斉藤庸吉(以上東京)

小倉五郎、松下重男、藤田

健作、安並正道(以上神戸)

小原恒太郎、岡本志良、竹

下富士松(以上名古屋)

計十一名

## 東京支部秋の例会

恒例の秋の旅は幹事さん達が散々考えた末、東京都下の飯能に決りました。何しろ秋の日のくれは案外早いし、日帰りという予定を入れると中々候補地もあるようで、条件にあった所という選ぶのに頭を痛めるものでご苦労の程が察しられました。

十月二十三日の当日は風もない願ってもない天気恵まれたのは幸せでした。考えると秋の旅は今迄天候に恵まれ余り雨にあった記憶がありません。これも日取りをいつにするかにも幹事さんの苦心があることが、あずかつて力が

あるものと陰の力に感謝されます。集合場所は池袋駅の中にある西武秩父線の改札口の前ときめられ、時刻は九時半。

池袋駅は国電の外、地下鉄が丸の内線と有楽町線、それに西武線の外に東武東上線が乗り入れており、郊外と都心の乗換え地点に当る所で終日乗降客が絶えないことでは屈指の場所。当日も時刻はラッシュを過ぎてはいたが、いや人の波の多いこと、次から次と到着する電車から黒山と違ってよいような通勤客が吐き出され、改札を通過して広い構内を通り過ぎる様は中々のもので、辰巳会の参加者の皆さんは普段見えない方が多いので面白い見物だったと思えました。

さて参加者は皆さんキチンと時間厳守で場所も間違えず集合されました。唯斉藤さんが身内のご不幸が突発した、め急に休まれ、他にも風邪のため五名が取り消しとなった結果参加者が十九名となったのは残念でした。この中に来年九〇才になる石田さんが元気な姿を見せて頂き皆さんの励ましになっていました。当日も挨拶や土産物の手配など色々骨を折って頂きました。

十時少し前の急行で出発。途中乗降があるが逆方向なので混むこともなく快適に走り十一時前飯能に着く。予約のバスが待機しており一同乗車。のどかな風景の中を走る。一時間足らずで目指す儘多屋に到着。まわりは緑こい樹木に囲まれたひなびた所で、旅館が数軒ある静かな環境、最近の温泉ブームでここがテレビに隠れた穴場として出たのがキツカケで安東幹事がとりあげ、検討の末、に決まったという訳。当館は日本武尊が湯につかって治療されたという歴史のある湯で、岩蔵温泉という名で史蹟になっている。細長い木造階段を溪流に向って下りていくとその突当りに湯舟があり、岩風呂式である。時間の関係で入湯した人は少なかったが俗気を感じさせぬ雰囲気である。旅館の前に見事な庭園があり、小さな池や置石、植込、芝生も少しあり日溜りになっている。そこで早速記念写真をとり、旅館の大広間で昼食となる。料理は新鮮な山の幸をふんだんにもりこんだバラエティにとんだもの。静かな環境と、古い造りのゆつたりした部屋での食事は、適当に酒も入って時間のたつのを

忘れさせ皆さん話しくつろがれた。安東さんが立上って請川さんが秋の叙勲に勳三等瑞宝章の栄を賜ったことを報告された。これは辰巳会としても大変に名譽なことであり、皆わがことのように喜んで盛大な拍手を送った。二時近くまで休息して再びバスに乗り、第二の予定地飯能築場に到着。小高い所でまわりは畑が、つづく田舎の別天地の中に、飯能窯元の虎沢英雄さんの家が一軒静かに建っている。世に幻の飯能窯と云われるもので、明治中期以来廃業となっていたものを最近再興したものである。製品が展示されているが種類が豊富な民芸調とみうけられた。土産にあれやこれや品物を物色するのに暫く時を過ぎ、適当な頃を見計ってバスに戻り、田舎道を駅に向う。三時過ぎ飯能駅に着く。ここで幹事さんの挨拶があつて流れ解散となる。帰りは四時の特急の指定券が手渡されたが、日はまだ高く気温も低くないので散策に町中に行く人、早目の電車で帰る人もあり余裕のある解散となった。なお辰巳会より各自に当地の名産の塩羊かんを土産として頂いた。(日塩 U記)